



経済産業省の平成29年度戦略的基盤技術高度化支援事業 (通称「サポイン事業」)に3件採択されました

(公財)長野県テクノ財団は、経済産業省の平成29年度戦略的基盤技術高度化・連携支援事業～戦略的基盤技術高度化支援事業～(通称「サポイン事業」)に事業管理機関^{*}として提案し、このたび3件が採択されました。これにより、当財団が事業管理機関として実施するサポイン事業は、継続案件を含め7件となりました。

1 内容 (公財)長野県テクノ財団では、県内企業の産学官連携研究開発を支援するため、裾野産業の技術向上につながる研究開発や販路開拓を支援する経済産業省の補助事業「戦略的基盤技術高度化支援事業(以下、サポイン事業という)」の活用を進めております。今回、平成29年度のサポイン事業へ事業管理機関として応募した結果、以下の案件が採択となりました。

今後、各研究開発プロジェクトの共同体構成員(企業、大学、公設試など)と共に研究開発成果の創出に向けて、最大3年間事業を推進してまいります。

2 採択案件一覧(詳細は別紙参照)

- ・青色LEDを用いた高効率シキミ酸新規製法の開発と実用化技術の開発
- ・航空機用先進熱制御システム用ヒートシンクの製造技術開発
- ・航空機用燃料非接触防爆型油量計システムの研究開発

また、サポインの詳細については、下記URLを参照ください。

<http://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/sapoin/index.html#sapoin>

^{*}戦略的基盤技術高度化支援事業における事業管理機関とは、研究開発計画の運営管理、共同体構成員相互の調整を行うとともに、研究開発成果の普及等を主体的に行う者です。

公益財団法人長野県テクノ財団
(事務局長)西原 快英 (担当)清水 基弘
電話 026-226-8101
FAX 026-226-8838
E-mail techno@tech.or.jp

研究開発計画名	概要	共同体構成員	長野県テクノ財団 担当セクション
青色LEDを用いた高効率シキミ酸新規製法の開発と実用化技術の開発	シキミ酸は、新型インフルエンザ治療薬であるタミフルの合成出発原料として、また美白有効成分として化粧品等の製造配合原料等に利用されている。しかしシキミ酸はトウシキミの実から抽出し製造されるため、収量が少なく安定的な確保ができない。そこで当提案では、キノコ菌糸への青色光刺激が飛躍的にシキミ酸蓄積を引き起こす特許技術を用いて、シキミ酸生産効率を高める培養方法と、高純度シキミ酸を単離する手法を確立する。	三栄製薬株式会社（茅野市） 国立大学法人信州大学 公益財団法人長野県テクノ財団	諏訪テクノレイクサイド 地域センター
航空機用先進熱制御システム用ヒートシンクの製造技術開発	航空機エンジンの大型化、冷却系の熱負荷増大に伴い、熱交換器の大口径化、軽量化、コストダウンが求められており、これに向けた次世代エンジン用熱制御システムの開発が進められている。ここで用いられる空冷ヒートシンクの製造技術開発を行う。従来小型高性能要求の強い分野で用いられてきたマジックヒートシンク方式を航空機用の大型化と新規材料に対応が可能となる高度化に向けた技術開発を行う。	中村製作所株式会社（蓑輪町） 住友精密工業株式会社（兵庫県尼崎市） 長野県工業技術総合センター 国立大学法人岩手大学 公益財団法人長野県テクノ財団	伊那テクノバレー 地域センター
航空機用燃料非接触防爆型油量計システムの研究開発	従来の航空機に搭載されている油量計システムは、静電容量方式であり、コンタミ等が堆積し、ショートした場合、爆発する危険性がある。「電気系統が燃料に非接触で燃料量を検出できる航空機搭載可能な油量計システム」を開発することにより、万が一、故障等が発生しても燃料非接触であり、点火源にならないため、従来方式より安全性が向上することに資する研究開発を行う。	多摩川精機株式会社（飯田市） 国立大学法人信州大学 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 公益財団法人長野県テクノ財団	伊那テクノバレー 地域センター